（別紙１）

平成２２年度　大田区立入新井第一学校　自己評価　報告書

１　自校の課題及び特色ある教育活動における自己評価

大項目	評価項目	評価の視点	評価	改善策
各教科	話すこと・聞くことの基礎基本を身につけさせるとともに、話し合う楽しさ・意義を実感できる学習活動を工夫し、伝え合う力の育成を図っている。	・話す力、聞く力を高めるための学習環境 ・効果的に話し合うための学習形態の工夫 ・話し合う場の設定 ・評価の工夫	3	・発達段階や学習内容に応じて話し合い活動の系統的な計画を立て、共通理解を図る。 ・国語科で身に付けた話す力、聞く力、話し合うスキルを生かす場を意図的に設定する。 ・校内研究による授業を通しての実証。
道徳	互いの人格を尊重し、人間関係を深めるとともに、協力し進んで行動できる児童の育成に努めている。	・年間を通した意図的・計画的な道徳授業の実践 ・ねらいとする価値に即した主発問の精選 ・多様な価値に触れる話合い活動 ・自己肯定感を深める展開後段	3	・年度初めに学校行事等に即した計画的な実施計画の立案 ・学校としての教員間での内容項目の理解と共有 ・ワークシートの有効的な活用
特別活動	心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るために、異年齢集団による交流活動である学校行事・児童会活動・クラブ活動ならびに縦割り班活動による共遊びを行っている。 伝え合う力をはぐくむために、人権尊重の精神を養うと共に、年間指導計画を基にした学級活動を中心とした話合いの活動の充実を図っている。	・異年齢集団による交流活動 　クラブ活動 　縦割り班共遊び ・学校行事 ・児童会活動 ・意図的・計画的な学級活動 ・話合いの活動の実践	3	・異年齢集団による交流活動において、指導する点と児童の自主性を発揮させる点を明確に分け、児童に達成感を味わわせる。そのために、進め方の均一化やねらいに即した活動の計画の立案を徹底する。 ・学校行事については、ねらいの見直しを行い、精選を図る。 ・新学習指導要領における変更点が反映され、本校の児童の実態に即した年間指導計画になるよう、見直しを随時行い更新していくとともに、実践を積み重ねていく。
生活指導	基本的生活習慣の育成・定着と、児童自らが自己の生活態度を向上させていこうとする意欲や規範意識を育てている。	・全教育活動を通じた、規範意識向上のための指導実践の継続 ・指導項目の校内統一と共有化 ・保護者への協力と啓発	3	・指導方法の検討 ・共通指導事項（入っ子スタンダード）の項目検討と改善 ・学校便りや学校ホームページなどに規範意識向上のための啓発文をさらに掲載していく。 ・家庭や地域への規範意識向上の啓蒙活動を行っていく。

２　指導課事業における自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	評価項目	評価の視点	評価	改善策
学力向上	大田区学習効果測定の結果を分析し、全教員で授業改善に取り組んでいる。	学力効果測定について十分に、クラスの傾向学年の傾向、教科の傾向を探る。	3	・漢字検定での結果をふまえ、各クラスでの定着度を確認し、それぞれ目標をたて基礎学力の定着を図っていく。 ・授業改善プランについての改善策を具体的に授業に活かしていく。
	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る授業を行っている。	・年間指導計画 ・教材研究 ・教具の確保	3	・年間指導計画の中で、基礎・基本の内容に十分な指導時数を配当する。 ・各教科部ごとに、基礎・基本の定着を目的とした教材研究を行い、学年におろす。 ・各教科ごとに、基礎・基本の定着を目的とした教具を確保、保管すると共に、教具リストを作成する。

学力向上	小学校外国語活動の充実に努めている。	・教材開発 ・授業研究	3	・ALTとの打ち合わせの時間が十分に取れないこともあるが、持ち込まれる教材が学校にはないもので、次の時間につなげにくい。 ・今年も教員全員で教材作りに取り組んだ。また、授業研究では教員が児童の役になり授業を体験した。来年度も引き続き、教師自身が英語の授業を気負いなくできるような環境づくりが必要である。

人間力向上	規範意識向上プログラムに基づいた教育活動を推進している。	・「入っ子スタンダード」	3	・学校生活全般における約束事項「入っ子スタンダード」により，共通理解に基づいた指導ができている。
	早寝・早起き・朝ごはんの推進を図るために家庭における基本的生活習慣の確立を啓発している。	・「早ね・早起き・朝ごはん」月間(5月・10月）の取り組み ・保健だより ・学校保健委員会	3	・本年度は7月に実態調査を実施し、10月に一週間チェックシート(生活調べ）を実施し、基本的生活習慣の定着を図り、その結果を保護者に知らせ啓発した。学校保健委員会でもこのテーマを取り上げる。 ・「早ね・早起き・朝ごはん」月間（5・10・2月）には、チェックシートを実施し定着を図る。
一人一人に向き合う教育	定期的な教育相談を実施し、児童・生徒の心に向き合う教育を推進している。	・カウンセラーとの連携 ・校内特別支援委員会 ・入りっ子を語る会 ・校内特別支援講座	3	・カウンセラーや管理職と連携し個別に応じて適切な対応はできていると思うが，校内全体での共通理解は，入りっこを語る会程度しか話題にできる機会がない。必要に応じて，全体に報告する機会は設けるべき。
	問題行動の未然防止及び早期発見・解決に向けて努力している。	・入りっ子を語る会 ・スクールカウンセラーとの連携 ・支援員との連携 ・学年会 ・学年、専科合同会	3	・学年会や学年、専科合同会などで気になる児童の情報交換を密に行い、学級担任一人でかかえこまずに対処している。さらに支援員、スクールカウンセラーが個別に対応し、よりよい方向に向かうようにしている。全校的には入りっ子を語る会で共通理解をはかっている。
教員の指導力向上	校内研究・校内研修を活性化し、教員の指導力向上に努めている。	・校内における自主研修会の実施 ・OJTの実施 ・新規採用教員を含む若手教員の育成の場の設定	3	・教科主任を中心に各教科の自主研修会を行う。 ・OJTの校内組織を確立し、組織的にＯＪＴを推進する。 ・自主研修会、OJT、校内研究会の研究授業と3本立てで新規採用教員並びに若手教員の育成を図る必要がある。 ・各学期1週間の教員相互授参観週間を設定し、お互いに授業を見合うことで授業力向上を図る。
	授業改善リーダーによる公開授業への参加、指導課主催など校外で行われる各種研修会に参加し、教員の指導力の向上に努めている。	・授業改善セミナーへの参加と内容の周知徹底 ・大田区教育研究会への参加と内容の報告 ・その他研修会への参加と内容の報告	3	・それぞれ参加はしていて個人レベルでの指導力向上に役立っている。しかし、それが学校全体の財産にはなっていないので、共有化を図ることが課題である。
地域と共に歩む学校づくり	相互理解と信頼をはぐくむ開かれた学校づくりに務めている。	・地域教育連絡協議会の定期実施 ・地域行事への積極的な参加 ・教育活動への地域人材の活用	3	・地域教育連絡協議会の議題やテーマなどの、会議内容の工夫 ・放課後のPTAによる防犯パトロールの実施 ・祭礼などへの巡回パトロールの実施 ・人材リストの作成

○自己評価の「評価」は、4：よく達成されている　3：おおむね達成されている　2　達成が不十分である　1：達成されていない　の4段階で行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価は適切ではない　C：評価のための資料が不足している　D：評価は不可能である　の4点で行う。